

大高同窓会報

発行

千葉県立大多喜高等学校同窓会

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481
〒298-0216 TEL 0470-82-2621
URL
<http://www.chiba-c.ed.jp/otaki-h/>
E-mail otaki-h@chiba-c.ed.jp

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 079-284-1380



新会長あいさつ

同窓会長 猿田 寿男 (昭42高)

大多喜高等学校同窓会会員の皆様には、益々ご清栄、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年の総会におきまして、山口登前会長の後を受けて同窓会長を務めさせていただくことになりました猿田寿男でございます。

歴代会長が築かれました伝統と歴史を考えますとその責務の重さに身の引き締まる思いが致しますが、本年に創立116周年を迎えました母校と会員数2万7千余名を擁する同窓会発展のため、微力ではございますが精一杯努める所存でございますので、皆様方の温かいご支援ご協力のほど、何卒よろしくお願い致します。

さて今春、平野明新校長をお迎えし、平成27年度新学学期の始業とともに本校の輝かしい歴史の新たな一頁が開かれました。

私も、桜花舞う中の4月の入学式で162名の新生入生に祝辞を申し述べる機会をいただき、この大多喜高校で学ぶ縁を互いに大切にされ、高校生活というかけがえのない3年間での勉学、また、心身の大きな成長の期待と応援の言葉を贈らせていただきました。

当時、まだ初々しかった新生入生も、伝統の明善祭を経験、さらに一夏を越えて、一回り大きく成長した様子です。

その1年生、そして既に自身の目標をしっかりと抱き進み始めている2年生・3年生とともに、本校校歌の「夷隅は遠く世界を目指す」の一節のとおり、経済・社会のグローバル化に即し、各界で活躍されている同窓生のお力添えのもと、グローバルな人材として大きく成長され

ますことを願っております。

また、私も現在、地元夷隅地域の一市政を預かる立場にありますが、この勝浦市・夷隅郡地域においても、人口減少、過疎化の波が押し寄せてきております。

この対処に向けて若い世代の希望を中心と致しました「地方創生」戦略を策定してまいります。今後はグローバルばかりではなく、ローカル（地方）にも軸足を置いた、言わばグローバルな人材の育成が重要かと思っております。

幸いにも、指導力に優れ熱意のある先生の多いことが我が大高の誇りであり、先生方の円滑な学校運営に資するためにも、同窓生の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

また、同窓会各支部の総会等にお招きをいただき、私も出来得る限りお伺いをしてご挨拶を申し上げさせていただいておりますが、いずれの機会におきましても、昔話に花が咲き、旧校舎の配置や再盛した生徒会活動など学当時の記憶も甦って、とても楽しい時間を過ごさせていただいております。

さらに、温かい励ましのお言葉も頂戴し、誌面をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

結びに、平野校長先生をはじめ、日ごろ溢れんばかりの愛情をもって生徒指導にあたっていただいている諸先生方へ敬意と感謝を申し上げますとともに、母校の一層の発展ならびに皆様のご健勝とご多幸、ご活躍を祈念致しまして挨拶とさせていただきます。

2年間よろしく申し上げます。



お世話になりました

前同窓会長 山口 登 (昭37高)

早いもので同窓会長を拝命して約三年の歳月が経ちました。斎藤万祐先生の後任という大役に身の縮む思いでしたが、皆様の御協力により、どうにかこうにかやってきました。

この間、夏季オリンピックの東京招致成功という朗報がありましたが、これは石原元東京都知事のぶれない確固たる信念と、オール・ジャパンの努力の賜物であったかと思えます。

また、我が国の現状を見ますと、国内では、人口減少などによる地方消滅危機問題、福島原子力発電所事故に伴う放射性廃棄物処理問題など、国際的には、日中・日韓外交正常化問題、北朝鮮拉致被害者問題、北方領土問

題など、容易には解決できそうもないような難しい問題が山積しています。

私は、同窓会長就任の御挨拶で、本校の校訓である「大中至正」、すなわち「偏らぬ真っ直ぐな心」や、柔道場に掲げられていた「力則必達」、すなわち「全力で努力をすれば必ず目標を達成できる」という言葉を取り上げました。容易には解決できそうもないような難しい問題も、この「大中至正」と「力則必達」の精神が大切ではないかと思えます。

最後に、この間お世話になりました皆様に心より御礼申し上げます。簡単ですが同窓会長退任の挨拶といたします。御協力本当にありがとうございました。

同窓会の益々の発展を祈念しております。



お世話になります！ 一大多喜高校に着任して一

校長 平野 明

同窓会の皆様には、日ごろから本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。本年四月から、石川 和之前校長先生の後任として、この歴史と伝統に輝く大多喜高校にお世話になることとなりました。もとより微力ではありますが、本校の更なる発展のため全力を尽くす所存ですので、どうかよろしく願いいたします。

私は、生まれも育ちも木更津で、当然のことながら教員生活の大半を内房地区の高校で過ごしてまいりました。ところが、三年前に縁あって山武地区の独立商業として歴史と伝統を誇る東金商業高校に勤務することとなりました。東金の街の様子もわからないままに日々を過ごすうちに、山武地区の土地柄や人となりが好きになり、片道64kmほどの通勤もさほど苦にならなくなりました。教育活動が落ち着いた雰囲気の中で営まれており、生徒も職員も意欲的に学校づくりを進めてくれました。

残り二年、「東商」のために全力を尽くすのも悪くはないと思っていたそんな折、三月末、春休みに入ってから本庁に呼ばれ、教育振興部長から「平野さんには、大多喜高校をお願いします。」と言われました。先ず思ったことは、「私で本当にいいのか」ということでした。大多喜高校は、その前身を旧制中学まで遡ることができ、幾多の名士を輩出している名門校であることは十分承知していたからです。正直なところ、荷が重く思いました。

着任してすぐに、本校が、過疎化の進む夷隅地区において、少子化の波に苦しみながらも、地域の皆様に愛され信頼を寄せられている学校であることが理解できました。生徒は、身だしなみが整い、礼儀正しく、基本的な生活習慣がよく身に付き、真摯な姿勢で学校生活を送っていること

をあらゆる場面に感じました。今は、私にできる精一杯のことをしなければ申し訳がたたないという思いで一杯です。

着任して最初に先生方をお願いしたことは、生徒の「出口保障」ということでした。生徒一人ひとりが、三年間を通して、大多喜高校で勉学や部活動に勤しみ、充実した学校生活を送り、最終的にはそれぞれの能力や適性に応じて進路実現を果たして卒業できるようあらゆる支援をするようお願いしました。一人でも多くの生徒が納得して本校を卒業できれば、それは、本校に対する評価につながり、ひいては、生徒募集に必ず好結果をもたらすと考えるからです。

毎朝、私学の大型バスが大多喜街道を走り抜けていきます。交通の便が良くなり、通勤・通学の範囲が拡大すればするほど地方が衰退する傾向にある今の日本社会では、本当の意味での豊かさは実現できません。

本校は、学年四学級規模の高等学校としては小規模校ではありますが、その校風は紛れもなく県下に誇ることができるものと確信しています。しかし、現状に甘んじて何もしなければ、この過疎化の波を乗り切れません。学校を取り巻くあらゆる要素を分析し、本校の持つ強みを最大限に活用しつつ、課題を一つ一つ丁寧に解決していく必要があります。保護者の信頼を獲得し、地域社会や本校を支えてくれる関係諸機関と一層の連携を深め、本校の発展を目指したいと思っております。そして、一人でも多くの中学生や保護者が、「地域の人材は地域で育てる」とこの良さに気付くことを願っています。

最後になりますが、本校同窓会がますます発展し、今後も本校から多くの有為な人材が輩出されることを祈念申し上げて御挨拶とさせていただきます。

教育功労者表彰受賞

昨年度、本校は千葉県教育委員会より「平成26年度千葉県教育功労者表彰学校教育の部（団体の部）」を受賞いたしました。これは、過去3年間における高等学校における道徳教育の研究への取組が評価されたものです。平成24年度に千葉県教育委員会から「道徳教育読み物教材活用推進校」の指定を、平成25年度は「道徳教材活用推進校」の指定及び国立教育政策研究所から「学習指導実践研究協力校（道徳教育）」の指定を、平成26年度には千葉県教育委員会より「特色ある道徳教育推進校」の指定を受け、高等学校道徳教育の研究

開発に取り組んできました。その授業実践は、県内外からも多くの学校が視察に訪れるなど、先進的な取組として大きな成果をあげました。これらの教育実践は高く評価されており、千葉県教育の進展に大きく貢献しました。平成27年1月には、茂原プラザヘイアンにて、猿田寿男同窓会長（昭42高）をはじめ、同窓会関係者やPTA関係者などを招き、受賞祝賀会を開催いたしました。今後も、引き続き本校発展のために努力してまいります。

文責 本校職員 森田圭一（平7高）

- 平成24年度 「道徳教育読み物教材活用推進校」（千葉県）
「公開授業参観者36名」、「内外教育寄稿」
- 平成25年度 「道徳教材活用推進校」（千葉県）
「学習指導実践研究協力校（道徳教育）」（国立教育政策研究所）
「公開授業参観者68名」、「中等教育資料寄稿」、「教育新聞取材」
「研究視察（北海道・新潟県・群馬県より）」
- 平成26年度 「特色ある道徳教育推進校」（千葉県）
「日本教育新聞取材」、「長生地方研究所だより寄稿」
「公開授業参観者51名」、「研究視察（京都府・徳島県より）」



支部・OB会だより

▶▶ 大多喜支部

大多喜支部通常総会が平成27年5月26日に猿田同窓会長、飯島後援会長そして平野校長先生、竹山事務局長をお迎えし、会員45名の出席を得て開催されました。

ご臨席いただいた同窓会長・後援会長から、生徒数の減少傾向に併せて実施された県立高等学校の統廃合を現実問題として受け止め、将来の教育環境を見据え、地方創生政策等を最大限に活用し、魅力ある地域づくり、町づくりに積極的に取り組む決意のご挨拶をいただきました。

人口減少に歯止めをかけることを基本問題として捉え、通勤・通学手段の確保から新規事業の展開等、雇用の確保から子育て支援まで、徹底した活性化を実施するとの力強い言葉がありました。

平野校長先生からは、「私の希望が叶った大多喜高等学校着任です。」生徒募集は確かに難しくなっている

が、今後も県・市・町・教育委員会と連携を図りながら大多喜町という素晴らしい教育環境を活かし、「やっぱり大多喜高校と言われるような魅力ある学校づくりに邁進します。」とのご挨拶がありました。

通常総会は次第に添って事業報告、決算報告、新年度事業計画(案)、新年度予算(案)が審議され、原案どおり承認されました。

新年度事業計画については、通学の要「いすみ鉄道支援策」から「大多喜高校通学路への植栽事業」、更には「ゴルフ大会等、会員間の親睦(案)」が熱心に審議されました。

竹山事務局長からは、進路指導、学習指導、部活動等「文武両道」を理念とする大多喜高校らしい各分野での活躍が報告されました。

なごやかな内に終了し、再び10月25日(日)の通常総会での再会を楽しみに散会しました。

▶▶ 女子高支部

女子高支部では5月24日(日)に大多喜高校会議室にて平野校長先生をはじめ、林教頭先生、安田事務長、竹山同窓会事務局長、鈴木先生の5名を来賓としてお迎えし、会員36名の出席を得て総会を開催しました。

平野校長先生より本年4月に着任され、歴史ある高校に勤務でき幸せであること。生徒、職員はとてもよい雰囲気、地元に大切にされているということを感じている。また、ご家族に安房南高校卒業の方がおられ安房高校との統合のこともふれ同じ女子高でもあることから支部に対する思いも話されました。事務局竹山先生からは、入学者選抜、進路指導、学習指導、部活動等学校の現況について報告がありました。

総会では26年度事業報告、決算の承認等、27年度事業計画案、予算案について審議され原案どおり承認されました。また、今後の支部の活動について総会への参加状況から会員への声かけ等意見が出されました。

午後のアトラクションでは今回で4度目となる「アコーディオンいちばら」の皆さんによる演奏と同窓生の清水菜さんに独唱をお願いしました。メンバーによる曲の説明と楽しいお話しとともにアコーディオンの演奏に合わせ合唱しました。なつかしい曲、新しい曲を覚えながら、そして清水さんの歌声と思い出話しに花を咲かせたひとときを過ごし散会しました。



千葉県立大多喜高等学校同窓会 女子高支部
第12回総会 平成27年5月24日

▶▶ サッカー一部OB会

第14回大多喜町近隣少年サッカー大会

大多喜高校サッカー部OB会主催による第14回大多喜町近隣少年サッカー大会が、12月13日(土)大多喜町海洋センター多目的広場において開催されました。夷隅郡市内、茂原市内から総勢16チームが参加し、日頃の練習の成果を十分に発揮した熱戦が繰り広げられました。

試合の結果は、過去の大会において4回優勝している大原FCが貫録を示して5回目の優勝を飾るほか、年々力をつけてきている東海FCが準優勝に、また昨年度の大会で初優勝をした御宿FCはPK戦を制し第3位につけました。

本町からは大多喜FC、西小学校そして今大会が最後となるFCフサモトが文字通りFC総元ファイナルと改称し大会に臨みましたが、いずれのチームも惜しくも2回戦で敗退しました。

寒空の下、応援に駆け付けた保護者からはピッチで活

躍する選手たちに熱い声援が送られていました。

【参加チーム】

大原FC・東海FC・御宿FC・国吉FC・FC中川・FC総元ファイナル・茂原SC・西小学校・長者FC・太東FC・大多喜FC・浪花FC・興津FC・FC千町・中根ORANGEWAVE・東小FC



▶▶ 大高卓友会(卓球部OB会) 活動報告

大高卓友会(会長 酒井敏立 昭和33年卒)は、大高卓球部の技術の向上、経済的支援及び会員相互の親睦を図ること等を目的として組織され、会員は第1回の卒業生から本年3月の第67回卒業生まで300名を超えています。

主な事業として現役選手の県内外遠征合宿、全国大会等出場時の支援、全日本選手権大会の見学及び近隣中学生指導講習会を行う他、公式大会には会場にて激励・応援も行っています。

特に、近隣中学生の卓球技術の向上を図り、もって大高卓球部の強化を目的として平成13年度から元全日本チャンピオンを始め一流の指導者や第一線で活躍する現役選手を招いて開催している「近隣中学生指導講習会」は、有意義な事業となっています。

大高卓球部は、創部以来、学校対抗(団体戦)において県大会優勝10回、準優勝15回、個人戦においても6名の県大

会チャンピオン、国体選手8名を送り出すなど伝統高にふさわしい成績を残しています。

最近においても顧問の海保先生の指導の下、平成23年度から3年連続で関東大会出場(女子団体)を果たしており、本会としても嬉しい限りです。

昨今、母校の生徒数も減少し部活も大変厳しい状況と聞いています。

大高卓友会としては、こうした伝統の灯を守り卓球部が益々活躍できるよう今後とも積極的に支援してまいります。

(大高卓友会 事務局)



同級生会開催に伴う報告について

- 1 卒業年度 昭和47年度卒業
- 2 開催日時 平成26年11月23日(日)
- 3 場 所 ホテル ポートプラザ ちば
千葉市中央区千葉港8-5
- 4 参加者 59名(含 恩師1名)
- 5 効果
 - ①CD(校歌等収録)
オープニングに校歌等のカラオケ版をBGMで流し、同窓会の雰囲気を出すことができました。
また、現在の母校を撮影した写真をスライドで紹介する際校歌をBGMで流し、全員で歌い一体感を持たせることに効果がありました。
 - ②NHK放映のビデオ
卒業以来、40年以上が経過した今でも、脈脈と受け継がれた校風・気質をこのビデオから感じることができ好評でした。また、当時とは違う可愛らしい制服に対して女性陣から羨ましがれる声も聞かれました。
- 6 感想(還暦同級生会を準備して)
「大中至正を心に期する」これは、卒業以来、母校を思い出す度に、頭に浮かぶ旧大中校歌の一節です。意味するところは、「理想的人格に一步でも近づけるように、常に刻苦勉励せよ」と聞いています。還暦を迎え、同級生会を開催するに当たり、「大中至正に恥ずかしくない人生を送れたらどうか。」また、「在校生の気質・校風は、当時と変わっていないだろうか」と思いを巡らし、「記憶に残る同級生会」にしたい思いが募ってきました。早速、困った時の事務局頼み、局長の竹山先生に連絡、一

つは母校の現況をビデオに収める許可をいただくこと。二つ目は何か母校を紹介できるCD等をお借りすること。ご多忙の中、快諾くださり大変に助かりました。校舎等の撮影当日には、教頭先生自らご同行していろいろと説明していただき恐縮いたしました。また、校歌等のCD及び大多喜高校の生徒が紹介されているNHK番組「ニッポンぶらり鉄道旅」のビデオもご準備してくださいました。これらに卒業アルバムを加え、「記憶に残る同級生会」の作成に取りかかりました。

お陰様で、卒業以来、母校を訪れたことのない出席者にとりましては、変わらない校舎の風景に思いを巡らし、当時は、なかったお城、体育館、綺麗に清掃された校舎に驚いていました。また、戸惑いの中で始まった会は、お借りしたCDの校歌をかけた瞬間に体に染みついているメロディーは、時間と空間を越えて42年前の高校時代へと運んでくださり、あちこちで昔話に花が咲いていました。

更に、借用したビデオの中の在校生の活躍は「大中至正」が確実に受け継がれていることを確認することができ、大変に好評でありました。可愛らしい女生徒の制服を羨む出席者もおりました。

人間形成のうえで最も大切な高校時代を良き恩師・良き仲間めぐまれて過ごせたことに改めて感謝せざるを得ません。

竹山事務局長には大変にお世話になりました。お陰様で大変に有意義な同級生会にすることができました。高等学校生活は短いものですが、人生を支える大切な時期でもあります。今後も伝統ある大多喜高校の発展のためご活躍されることをお祈り致します。

昭和47年度卒業生 末吉 智

昭和44年度(第22回)卒業の同窓会報告

平成27年2月7日(土)、一宮駅前の「松濤軒」を会場に、学年全体を対象とした同窓会を開催し、60名(女性20名、男性40名)の参加がありました。再会を喜びお互いの近況

を語り、楽しい時間は瞬時に経過しました。3年後の同窓会には、より多くの仲間の参加を期待し、校歌を斉唱して散会しました。会では母校同窓会事務局から配布された「学校の現況報告」に目を通し、母校の発展に一同思いを寄せました。

平成25年度 同窓会決算報告書

● 一般会計 ●

1 収入支出対照表

| 収入総額 | 支出総額 | 残 額 | 説 明 |
|------------|------------|------------|--------|
| 5,808,837円 | 2,341,496円 | 3,467,341円 | 翌年度へ繰越 |

2 収入の部

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比 較 | | 説 明 |
|-----|------------|------------|---------|---------|-------------|
| | | | 増 | 減 | |
| 繰越金 | 3,036,558円 | 3,036,558円 | 0円 | 0円 | 平成24年度繰越金 |
| 会 費 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | |
| 入会金 | 795,000円 | 795,000円 | 0円 | 0円 | 5,000円×159名 |
| 賛助金 | 2,000,000円 | 1,916,940円 | 0円 | 83,060円 | 同窓会報発行賛助金 |
| 雑収入 | 500円 | 60,339円 | 59,839円 | 0円 | 寄付金・預金利息 |
| 計 | 5,832,058円 | 5,808,837円 | 59,839円 | 83,060円 | |

3 支出の部

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比 較 | | 説 明 |
|-----|------------|------------|-----|------------|-----------|
| | | | 増 | 減 | |
| 会議費 | 250,000円 | 39,414円 | 0円 | 210,586円 | 総会補助、役員会費 |
| 運営費 | 150,000円 | 49,742円 | 0円 | 100,258円 | 事務費、通信費 |
| 活動費 | 600,000円 | 433,520円 | 0円 | 166,480円 | 支部活動費、旅費等 |
| 広報費 | 2,000,000円 | 1,818,820円 | 0円 | 181,180円 | 同窓会報発行代 |
| 雑 費 | 80,000円 | 0円 | 0円 | 80,000円 | 慶弔費 |
| 予備費 | 2,752,058円 | 0円 | 0円 | 2,752,058円 | |
| 計 | 5,832,058円 | 2,341,496円 | 0円 | 3,490,562円 | |

● 特別会計 ●

1 収入支出対照表

| 収入総額 | 支出総額 | 残 額 | 説 明 |
|------------|------|------------|--------|
| 1,794,512円 | 0円 | 1,794,512円 | 翌年度へ繰越 |

2 収入の部

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比較(減△) | 説 明 |
|-----|------------|------------|--------|-----------|
| 繰越金 | 1,794,226円 | 1,794,226円 | 0円 | 平成24年度繰越金 |
| 雑収入 | 500円 | 286円 | △214円 | 預金利息 |
| 計 | 1,794,726円 | 1,794,512円 | △214円 | |

3 支出の部

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比較(減△) | 説 明 |
|-----|------------|-------|------------|-----|
| 繰出金 | 0円 | 0円 | 0円 | |
| 予備費 | 1,794,726円 | 0円 | 1,794,726円 | |
| 計 | 1,794,726円 | 0円 | 1,794,726円 | |

監 査 報 告 書

諸帳簿並びに証拠書類を精査したところ、適正であることを認めます。

平成 26 年 9 月 4 日

監 事 酒 井 太 門 @
渡 邊 雅 文 @



部活動状況

平成27年 第39回全国高等学校総合文化祭

美術・工芸部門 吉野 碧(3A)
渡邊万喜子(3A)

| | 男 | 女 | 合計 |
|-----------|----|----|----|
| 柔 道 | 12 | 2 | 14 |
| 剣 道 | 15 | 13 | 28 |
| 陸 上 競 技 | 22 | 19 | 41 |
| 弓 道 | 20 | 24 | 44 |
| 野 球 | 33 | 4 | 37 |
| ソフトテニス | 16 | 8 | 24 |
| バレーボール | 13 | 13 | 26 |
| バスケットボール | 10 | 18 | 28 |
| サ ッ カ ー | 24 | 4 | 28 |
| 卓 球 | 10 | 6 | 16 |
| 生 物 | 23 | 0 | 23 |
| 美 術 | 5 | 14 | 19 |
| 書 道 | 0 | 20 | 20 |
| マンドリン・ギター | 6 | 18 | 24 |
| 演 劇 | 3 | 16 | 19 |
| 英 語 | 0 | 7 | 7 |
| 吹 奏 楽 | 2 | 26 | 28 |
| 茶 道 | 0 | 17 | 17 |
| 華 道 | 0 | 7 | 7 |



平成27年度 全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) 出場

平成27年度 第62回関東高等学校剣道大会出場

山口優奈選手(3年)が女子個人の部で第3位入賞



平成26年度進路状況報告 進路指導主事 佐藤幸生

2015年度入試を振り返ると・・・

大学受験者数は前年度に比べ約0.9%増加したが、センター試験の受験者数は約0.3%減となった。国公立大と私大に分けて見てみよう。

まず、国公立大だが、志願者数は前年度に比べて9,874人の減少で、4年連続減少となり、志願倍率も、前年度の4.78倍から4.67倍と0.11ポイントダウンした。志願者数が減少した最大の要因は2015年度入試から数学、理科が新課程での出題になり、受験生が敬遠したからではないかとみられる。特に理系の理科②(物理、化学、生物、地学)では共通一次試験、センター試験を通じて、初めて高校理科の全範囲からの出題となる2科目を受験するという負担増により、文系においても理科基礎科目を2科目受験しなくてはならないという負担増により、国公立を避け、私大へ流れたと考えられる。

一方私立大だが、志願者数は前年に比べ増加しており、この傾向は2007年度から9年連続となっている。この要因として第一に考えられるのは、学部・学科の新設やそれに伴う入学定員の増加である。特に看護系で大学・学部・学科新設が目立っている。第二に、インターネット出願や受験料割引、全学部入試の新規導入や併願学部の拡大、また、英語での外部試験利用方式実施といった入試改革が挙げられる。さらに、郊外から都心へのキャンパス移転といった動きも増加の要因と考えられる。第三に、新課程センター試験理科の負担増を敬遠したことによる私立大専願への動きだ。第四に、厳しかったセンター試験の出題から目標得点をとることができず、国公立大への出願をあきらめた受験生もおり、私立大の一般方式への出願や併願校数を増やす動きがあったことだ。この4つの要因により、私立大の志願者数は増加したと考えられる。

昨年度の本校の進路指導の概要

- (1) 進路説明会(3年) 4月
外部講師等による分野別(大学・短大・専門学校・就職など)進路説明
- (2) 夏期・冬期・実力養成講座授業、進学課外授業
- (3) 1年大学見学会(バス) 千葉大学・日本大学他 7月
- (4) 看護体験・インターンシップ 7・8・11月
鶴舞看護専門学校、いすみ医療センター、千葉県がんセンター、君塚病院、いすみ鉄道アテンド体験他

- (5) 大学出張講義体験会 11月
神田外語大・日本大・専修大・淑徳大・駒澤大・聖徳大・北里大・文教大・城西国際大・千葉敬愛短期大
- (6) 保護者進路説明会 11月 リクルート 岡 裕幸氏
「未来を見失わない進路選択」
- (7) 進路講演会 12月 株式会社SCI 小川 明広氏
「ピンチはチャンス！」
- (8) 2年進路説明会(2年) 12月
大学・短大・各種専門・民間就職・公務員の進路説明
- (9) 進路報告会 3月 卒業生の体験談ほか
(千葉大、東京理科大、神田外語大、帝京大、淑徳大、玉川大、日本大、女子栄養大、大多喜町役場他)

平成26年度卒業生主な進学先

〔四年制大学〕

千葉大、千葉県立保健医療大、明治大、中央大、学習院大、東京理科大、日本大、駒澤大、國學院大、順天堂大、国士館大、日本体育大、武蔵大、玉川大、神田外語大、獨協大、東京農業大、日本女子体育大、和洋女子大、女子栄養大、千葉工業大、工学院大、東京電機大、神奈川大、淑徳大、武蔵野大、帝京大、城西国際大、亀田医療大他

〔短期大学〕

青山学院女子短大、千葉敬愛短大、植草学園短大、千葉経済短大、千葉明德短大、日本大学短大、戸板女子短大、東京家政大学短大、帝京短期大他

〔専門学校〕

千葉中央看護、船橋市立看護、船橋中央病院附属看護、千葉医療センター附属千葉看護、亀田医療技術、東京メディカル・スポーツ他

〔公務員・民間就職〕

大多喜町役場、長南町役場、日宝化学株式会社他

| ◇平成26年度卒業生進路状況 | | | | | | | | | |
|----------------|-----|----|-----|----|----------|----|-----|----------|-----|
| 性別 | 大学 | | 短大 | | 専門 学校 | 就職 | | 浪人 ・他 | 合計 |
| | 国公立 | 私立 | 国公立 | 私立 | | 民間 | 公務員 | | |
| 男 | 0 | 43 | 0 | 2 | 11 | 2 | 2 | 9 | 69 |
| 女 | 2 | 44 | 0 | 10 | 26 | 3 | 1 | 2 | 88 |
| 計 | 2 | 87 | 0 | 12 | 37 | 5 | 3 | 11 | 157 |

事務局だより

●平成26年 年度末人事異動

《退任された先生方》

- 石川 和之 [校長] 平成25年より2年間 ※大原高等学校へ再任用
- 鎌田 健 [保健体育] 平成22年より5年間 ※大多喜高等学校へ再任用
- 阿部 良二 [英語] 平成21年より6年間
- 鶴岡みよ子 [実習助手] 平成15年より12年間 ※京葉高等学校へ再任用
- 野口 拓也 [嘱託] 平成25年より2年間

《転任された先生方》

- 齊藤 真一 [英語] 平成18年より9年間 ※山武市立成東中学校教頭へ(昭56高)
- 各務 敬 [地歴公民] 平成26年より1年間 ※大原高等学校へ再任用
- 米倉 一英 [理科] 平成26年より1年間 ※大原高等学校へ再任用
- 弓能家雅宣 [保健体育] 平成18年より9年間 ※一宮商業高等学校へ再任用
- 総田 京子 [芸術(音楽)] 平成22年より5年間 ※船橋東高等学校へ
- 稲邑 嘉裕 [芸術(美術)] 平成19年より8年間 ※長生高等学校へ
- 小高久美子 [主査] 平成23年より4年間 ※九十九里高等学校へ

《転入された先生方》

- 平野 明 [校長] 東金商業高等学校より
- 愛甲 雅彦 [地歴公民] 袖ヶ浦高等学校より ※再任用
- 田中 富雄 [保健体育] 長生高等学校より
- 菅根 早苗 [芸術(音楽)] 大原高等学校より (昭51高)
- 佐藤 裕洋 [英語] 大原高等学校より (昭61高)
- 峯島 栄治 [英語] 茂原市立早野中学校より
- 高師 幸子 [実習助手] 長生高等学校より
- 高橋 務 [地歴公民] 佐原高等学校より ※新規採用
- 西川 昇真 [芸術(美術)] 犢橋高等学校より ※新規採用
- 長谷川由紀子 [主査] 一宮商業高等学校より
- 森 章 [芸術(美術)] 鶴舞桜が丘・岬高等学校より ※非常勤講師
- 庄司 宏 [理科] ※再任用で継続
- 早川 隆雄 [数学] ※非常勤講師で継続
- 村松 久子 [家庭] ※非常勤講師で継続

●異動連絡のお願い

住所等の異動の折には郵便はがきなどで同窓会事務局にご連絡ください。同窓会関係の郵便物が宛先不明で返送されますと会員名簿上での住所は空欄となります。同窓会事務局では少しでも正確な情報を把握しておきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願い致します。

●原稿募集のお願い

同期会・クラス会・OB会等を開催されましたら、会報に掲載しますので、ご連絡をお願い致します。また、同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしています。あるいは、原稿をお願いできる方をご推薦ください。

**平成27年度
同窓会総会・懇親会のお知らせ**

日時 **10月25日(日)** 午前11時20分～

場所 **勝浦ホテル三日月**

会費 **男性 8,000円 女性 5,000円**

**お問い合わせ、お申し込みは、
下記までお願い致します。**

TEL 0470-82-2621

(大多喜高校内・同窓会事務局)

●お願い

同窓会報の『同窓生の声』に寄稿いただける方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局へご連絡下さい。

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481 TEL 0470-82-2621
千葉県立大多喜高等学校同窓会

●振り込め詐欺被害にご注意ください

勝浦警察署から担当者が来校され、同窓生の親御さん、特に50歳から70歳前後の方が被害に遭われているとのことでした。

●個人情報について

個人情報についてですが、同窓会員の情報は(株)サラトにて一括管理されています。これは、会報の発行や名簿作成のためです。それ以外の使用は一切行っておりませんのでご承知ください。

●役員名簿

| | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 会 長 | 猿田 寿男 (昭42高) | |
| 副 会 長 | 福山 悦男 (昭29高) | |
| | 近藤 万芳 (昭32高) | |
| | 太田 洋 (昭41高) | |
| | 加藤 茂範 (昭44高) | |
| | 櫻井 榮子 (昭29女) | |
| | 稲村千代子 (昭35女) | |
| 監 事 (会計監査) | 酒井 大門 (昭41高) | |
| | 渡邊 雅文 (昭43高) | |
| 顧 問 | 小高 芳男 (昭22中) | |
| | 齋藤 萬祐 (昭32高) | |
| | 山口 登 (昭37高) | |
| 支 部 長 | 大多喜 | 三上 幸男 (昭40高) |
| | 大 原 | 不在 |
| | 勝 浦 | 猿田 寿男 (昭42高) |
| | 茂 原 | 村杉 仁 (昭31高) |
| | 千 葉 (千葉大会) | 福山 悦男 (昭29高) |
| | 岬 | 麻生 学 (昭42高) |
| | 女子高 | 櫻井 榮子 (昭29女) |
| | | |

【支部長は各支部で選出していただいています。】

ト 話 題

- ・若菜章夫様(昭38卒)より、野球部へピッチングマシーンを寄付していただきました。ありがとうございました。
- ・石井晴幸様(昭40卒)より、マンドリン・ギター部へクラシックギターを寄付していただきました。ありがとうございました。



平成26年度

- ・勝浦大会より寄付していただいた5万円をいすみ鉄道対策費として明善祭の準備費として使用しました。
- ・千葉県教育委員会より平成26年度特色ある道徳教育推進校として指定を受け、10月9日に公開授業を行いました。
- ・本校による、いすみ鉄道への支援活動の取り組みがテレビやラジオ、雑誌など多くのメディアに取り上げられました。今後も生徒会やいすみ鉄道対策委員会を中心に積極的に取り組んでいきます。
- ・昨年度の野球部の活躍に際し、大多喜支部より2回にわたり、合計6万円の寄付をいただきました。ありがとうございました。

平成27年度

- ・渡邊伊三郎様(昭24卒)より、ご自身の経験を踏まえ、まとめられた本を寄付していただきました。ありがとうございました。